

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26760023

研究課題名(和文) Research towards the creation of an integrated communications strategy for international visitors: a case study of Fujisan's north face.

研究課題名(英文) Research towards the creation of an integrated communications strategy for international visitors: a case study of Fujisan's north face.

研究代表者

JONES THOMAS (JONES, Thomas Edward)

明治大学・ガバナンス研究科・特任准教授

研究者番号：50611745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：2013年に富士山がユネスコ世界文化遺産に登録され、国内や世界から富士山に観光客が集まることが予想され、それに伴って多様な課題が提起された。特に富士山を世界文化遺産にたらしめる、その文化的価値の調査と周知方法の不備・不足は改善が必要である。本研究は、観光客増加の影響と管理上の課題を調査することにより、富士山の文化的資源を保全・活用するための有効なコミュニケーション戦略を提言する。

研究成果の概要(英文)：In 2013, Mt. Fuji was listed by UNESCO as a cultural World Heritage Site (WHS). However, the ICOMOS evaluation criticized the interpretation at the 25 components which should convey Fujisan's value as a WHS, noting that "existing interpretation (from brochures to panels and plaques) is piecemeal and/or lacks clarity." Appropriate transmission of the stories of Fujisan's cultural heritage to the increasing volumes of visitors both domestic and international is one responsibility of a WHS. The research goal of this project is to identify such stories, which could in turn pave the way for an integrated communications strategy vital for tackling visitor impacts and management issues.

研究分野：protected area management

キーワード：world heritage cultural heritage UNESCO Mount Fuji inbound communication visitor management climber

1. 研究開始当初の背景

2013年に富士山がユネスコ世界文化遺産に登録されたのを契機に、国内のみならず世界から富士山に観光客が集まることが予想され、それに伴って多様な問題が提起された。登山ルート上の自然環境および、トイレなど人為的に設置された設備ほか、森林資源全般の管理、飲食物のごみ、施設の衛生面や安全性など、問題が多岐にわたることは想像に難くない。しかし、中でも重要なのは、富士山を世界文化遺産にたらしめる、文化的価値の調査とその周知方法であった。これは、国際記念物遺跡会議 (ICOMOS/ International Council on Monuments and Sites) が世界文化遺産への審査時に挙げた、25の指摘事項として問題視されたが、すべてが富士山の世界文化遺産登録の必要要件に係わっていたことは注目に値する。特に、登山者への案内に不備や不足があり、正確性を欠いているとは、文化遺産としての可能性を疑問視されてもおかしくない。

この一因は、近年の登山ブームにより、短時間で登山を行う「弾丸ツアー」が頻発したことがあげられる。登山を身近なものとし、未経験者にも富士登山を体験させた功績はあるものの、限られた興味・関心しかもたない登山者の増加は、登山ルートに設置する案内板を簡略化し、登山道や周辺環境の悪化をもたらした。富士山の管理者は、増加する登山者への対応を優先せざるを得なく、より本質的で労力を要す、自然環境の保全という目的のための活動が低下したことは否めない。

また、登山者が富士登山に求めるものも多様化しており、そのような要望に短期的に対応した結果、富士山全体の文化的価値を伝えることができなくなっている。

2. 研究の目的

富士山がその文化的価値を正しく、有効に活用することは、世界文化遺産として果たす

べき役割だと認識している。本研究はそれを可能にするため、世界文化遺産への登録の影響を把握し、自然・人的資源の管理に関する問題を顕在化させ、解決方法を検討する。

3. 研究の方法

主として、下記の通り3つのステークホルダー (利害関係者) を設定し、それぞれに対して質問票とインタビューによる調査を行う。役割や関心が異なる対象に特化する調査を行うことで、富士登山をめぐる近年の問題を、幅広く把握できると考えた。

(1) 管理者

富士山は法的には富士箱根伊豆国立公園として環境省の管理下にあるが、運営は多くの関連機関の連携の元に行われている。例えば、森林局の他、土地の権利所有に係り静岡県と山梨県、またその他15地方公共団体が合意を形成している。関連する機関の経緯や役割を確認し、合意形成へのプロセスを調査する。

(2) 富士山への観光客 (主に登山者)

質問票による調査とインタビュー調査を行い、利用者の視点から富士山の現状についての意見を収集する。調査対象者を主として登山者にしたのは、富士山の利用に関する問題の増加は登山者の増加に由来すると考えたためである。

調査を行う際は、日本人 (日本語を母語とする人や日本に慣れ親しんでいる人)・外国人 (日本語を母語としない人や日本に慣れ親しんでいない人) など、多様な人に調査を依頼した。

特に、日本国内では発言する機会のない、海外からの観光客からの意見も集めることは、世界文化遺産としての富士山活用を考えると意義が大きい。また、国内の観光客との比較を可能にすることにより、海外の観光客を対象とするサービス・マネジメントの必要性も把握することができる。

(3) 近隣住民

近隣住民は、学術的調査では触れられることが少ないものの、自然資源の管理の面で重要な役割を担っている。持続可能な自然環境を維持するには、近隣住民による自然資源の日常的・長期的な利用が欠かせない。彼らが長い間そのような生活が可能だったということは、そのような活動がともすれば自然資源の保全活動としての意義を担っていることに他ならないからである。富士山を今後、より大きな観光資源として活用していくことを踏まえると、開発と保全（環境保護）が両立しうる活用方法を検討することは重要であることは言うまでもない。

4. 研究成果

本研究は、文献調査の後、前項で述べた3つのステークホルダーに対する質問票による調査およびインタビューによる調査を、3か年で行った。

(1) 文献調査は主として日本語で書かれた報告書を対象とした。文献は一次資料として分析の対象としたほか、一部は英語で翻訳し、研究遂行のための理論・枠組みを策定するために役立てた。

(2) 質問票は文献調査の結果を踏まえて2014年度に作成し、回答方法には選択回答方式（クローズド・クエスチョン）と自由回答方式（オープン・クエスチョン）の両方を採用した。第1回目の調査では、2015年8月に富士山五合目で登山客に調査票を配布し、合計で985枚の回答を得た。言語別の内訳は英語459枚、日本語411枚、中国語115枚であった。第2回目の調査では2016年8月に富士山5合目で調査票を配布し、733枚の回答を得た。内訳は、英語419枚、日本語238枚、中国語76枚であった。

(3) ステークホルダーに対するインタビューによる調査は、登山者の中では外国人（日本語を母語としないひとや日本に慣れ

親しんでいない人）を対象とした。管理者の中では現地の従事者・管理者や関連諸機関の担当者を対象とした。出自や立場、富士山とのかかわり方において多様な人を対象とした結果、世界文化遺産登録を契機として挙げた問題点を幅広く把握することができ、同時にそれらの解決法を考える上でも多様な視点を持つことができたと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計4件)

1. JONES, T.E., YANG, Y. & YAMAMOTO, K. (2017). Assessing the Recreational Value of World Heritage Site Inscription: A Longitudinal Travel Cost Analysis of Mount Fuji Climbers. *Tourism Management* 60, 67-78.
2. JONES, T.E., YANG, Y. & YAMAMOTO, K. (2016). Inbound, expat and domestic climbers: A segment-based analysis of Mount Fuji's summer season. *Tourism Review International*, Research Note, 20, 155-163.
3. JONES, T.E. & YAMAMOTO, K. (2016). Segment-based monitoring of domestic and international climbers at Mount Fuji: Targeted risk reduction strategies for existing and emerging visitor segments. *Journal of Outdoor Recreation and Tourism* (13): 10-17.
4. JONES, T.E., YAMAMOTO, K. & KOBAYASHI, A. (2016). Investigating Climbers' Awareness and Willingness

to Pay a Donation: A Comparative Survey of Domestic and International Climber Segments at Mount Fuji. *Journal of Environmental Information Science* 44(5), 131-136.

〔学会発表〕(計5件)

1. JONES, T.E. (2016). "Recreating Religious Heritage: The Case of the Fuji-ko Pilgrimage Tour." Inheriting the City: Advancing Understandings of Urban Heritage, Taipei, Taiwan, 2016/3-4.
2. JONES, T.E., YANG, Y., YAMAMOTO, K. (2015). "Inbound, Expat and Domestic Climbers: A Segment-Based Expenditure Analysis of Mount Fuji's Summer Season." Paper presented at the 5th Advances in Hospitality and Tourism Marketing & Management Conference 2015, Beppu, Japan.
3. JONES, T.E. YAMAMOTO, K. (2014). "Climbers' awareness and willingness to pay the new donation on Mount Fuji: Findings from a survey of international climbers." Proceedings of JITR Annual Conference, 29, 321-324.
4. JONES, T. E., & YAMAMOTO, K. (2014). "Comparing the Awareness of a New Donation System and Willingness to Pay of Japanese and International Climbers at Mount Fuji." 4th International Conference on Tourism Research (4ICTR) Kota Kinabalu, Sabah, Malaysian-Borneo.

5. JONES, T.E. YAMAMOTO, K. (2014). "Visitor perspectives of UNESCO World Heritage Site branding: A comparative study of domestic and international climbers at Mount Fuji." Proceedings of JITR Annual Conference, 31, 77-80.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者
ジョーンズ, トマス エドワード
(Thomas Edward JONES)
明治大学・ガバナンス研究科・特任准教授
研究者番号：50611745

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者